

関係副詞 *where* と共起する名詞について*

照井正樹
佐藤元樹

1. はじめに

関係副詞 *where* は一般に *place* や *location* などの場所を表す名詞を先行詞に取り、その場所での出来事や状況を述べる関係節を導く。しかし、現代英語の実際の用法を見ると、*where* が必ずしも場所名詞のみを先行詞とするわけではないことが分かる。とりわけ、*time*, *period*, *age* といった時間を表す名詞を先行詞として *where* が用いられる例がコーパスにおいて確認される。以下の(1)-(3)は、それぞれ制限関係節、自由関係節、非制限関係節において脱規範的 *where* が用いられている例である。

(1) So we are still in the noise period **where** it is too early to tell. (COCA, 2012, BLOG)

(2) The future is **where** we envision what our success would look and feel like. (COCA, 2012, BLOG)

(3) But we are in a new time, **where** people are behaving in abnormal ways and calling it normal... (COCA, 2012, WEB)

住吉 (2023) は、脱規範的 *where* は先行詞となる名詞が場所として再分析されることによって認可されると論じている。この分析は、関係節外部の語彙的・構文的要素が *where* の選択に関与することを示すものであり、本稿もこの見解を支持する。しかし、外部要因のみで時名詞+*where* の用法を十分に説明できるかどうかについては、なお検討の余地がある。本稿では、*where* の選択が関係節外部の要因のみならず、関係節内部の要因によっても動機づけられることを論じる。

2. 関係副詞 *where* の選択を動機づける要因

時名詞と *where* の共起は、単に先行詞が場所と解釈可能かどうかによって決まるわけではない。本節では、*where* の選択を動機づける要因として、関係節外部の要因と、関係節内部の要因の二つの場合があることを示す。

2.1 関係節外部の要因

関係副詞 *where* の使用を動機づける要因の一つは、関係節外部の語彙的・構文的要素によって先行詞が「場所」として再解釈される場合である。これは第 1 節で概観した住吉 (2023) の分析と一致する。住吉は、時名詞が比喩的に「場」として概念化されることによって *where* が認可されると論じている。(4) はその典型例である。

(4) We live **in an age** where ...

この例では *live in* という句が *age* を「場」として再分析している。それによって、比喩的に場所化された先行詞が *where* の使用を可能にしている。さらに、このような外部要因による場所化は、住吉 (2023) が挙げる例に限らない。以下の例も同様に、関係節外部の語彙的要素によって先行詞の場所性・場面性が強められる。

(5) There is a point in life where you **hit an age** where you're looking for a partner. (COCA, 2017, SPOK)

(6) ... **experience a moment** where they feel... (COCA, 2002, SPOK)

(7) It seemed **like a moment** where we could expect years... (COCA, 2012, WEB)

(8) **In a new era** where video's authenticity will be robustly questioned... (COCA, 2019, MAG)

(5)では、場所への到達を示す到達系動詞である *hit* が、(6)では、場面を具体的に思い描く *experience* などの経験動詞が、(7)では、場面を想像させる *like* などの比喩的前置詞、(8)では、場面の切り替わりを表す *new*, *different* などの形容詞が先行詞の場所性・場面性が強めている。

2.2 関係節内部の要因

また、関係副詞 *where* は、関係節内部から動機づけられる。すなわち、節内部の述語が場所項を選択する場合、先行詞が時名詞であっても *where* が認可される。例えば、(9)の *met* のような動詞は、本来的にどこかで会うという空間的項を要求する動詞であり、(10), (11)の *relocate*, *gather* も本来的に場所の移動を前提とする。

(9) ... wasn't only the time where day **met** night... (COCA, 2011, FIC)

(10) ...these days, where people are so often **relocating**... (COCA, 2012, WEB)

(11) ...a moment where thousands **gathered** to honor him... (COCA, 2018, SPOK)

これらの例は、関係節内部の述語の意味特性が *where* の選択を動機付ける要因になっている可能性を示すものである。また、(9)-(11)における関係節内部の動詞が場所項を要求することは、以下の辞書定義から説明できる。

(12) a. MEET: “to go to a place where someone will be” (LDOCE Online)

b. RELOCATE: “to move to a different place” (LDOCE Online)

c. GATHER: “to get things from different places and put them together in one place” (LDOCE Online)

したがって、*where* の選択を動機付ける要因は、先行詞の意味特性だけではなく、関係節内部の述語構造によっても左右されると考えられる。特に、関係節内部の動詞が空間的項を要求する場合には、その要求が *where* の使用を動機づける要因として機能している可能性が高い。

3. 母語話者の直感

関係副詞 *where* の使用について、英語母語話者 3 名による容認度判断を通して、これまで提示した分析が英語母語話者の直感とどの程度一致しているのかを検証した。

まず、*We live in an age where/when...* のように、先行詞が関係節外部の要因によって場所的に解釈される例では、3 名全員が *where* を自然と判断した。これは *live in* が空間的枠組みを前提とすることにより *age* が生活の場として再解釈されるためである。一方、*the time where/when day met night...* のように、先行詞自体に場所性はないが、関係節内部の動詞が場所項を要求する例では、*when* が優勢であったものの、*where* も文法的に可能と判断された。

この結果は、先行研究で議論された関係節外部の要因に加えて、関係節内部の意味特性が *where* の使用を実際に認可しうることを示している。すなわち、先行詞が明確に場所化されていなくとも、関係節内部の動詞が場所項を選択する場合には、節内部から場所的解釈が誘発され、*where* が容認される。

4. おわりに

本稿では、時名詞+*where* の用法において、*where* の選択が関係節外部の要因だけでなく、関係節内部の要因によっても動機づけられることを論じた。母語話者の判断結果も、内部要因の関与を支持するものであった。以上より、脱規範的 *where* は外部要因と内部要因の双方が関与していると考えられる。

References

住吉誠 (2023) 「関係副詞 *where* が示す脱規範的汎用性：英語における脱規範性・変則性を生む力についての一考察」『Ex エクス：言語文化論集』13, 147-176

辞書

Longman Dictionary of Contemporary English (LDOCE) Online. <https://www.ldoceonline.com/jp/>

コーパス

Corpus of Contemporary America English (COCA) <https://www.english-corpora.org/coca/>

*本研究に際し、貴重なご助言を賜りました鈴木亨先生、朝賀俊彦先生、ならびに坂本瑞生氏に心より感謝申し上げます。また、調査にご協力くださったインフォーマントの方々にも厚く御礼申し上げます。